

童

2023年3月17日

早すぎる春の訪れですね。やはり暖冬 地球温暖化を背筋が寒くなるほど危機的に感じる春の訪れ。水不足、気候の不安定さを感じてしまいます。ここで人間が これまでの暮らしを問題意識を持ち、一人一人がどう変えていく事が問われ、実践していく時代でしょうね。特に、エネルギー問題 冷暖房 電気の使用量 自動車利用 そして、娯楽やレジャーの内容 コロナで学んだ自宅での有意義な過ごし方・・・ 3, 11 東日本大震災から学んだ省エネ暮らしもいつの間にか忘れ、コロナ化でできた暮らしも、これまた終焉にむかうと同時に、消費やレジャーを拡大解放しようとしている現状。喉元過ぎれば忘れ去ってしまう、一度味わった消費や快楽を忘れられない人間の性でしょうか。これらの繰り返し、地球温暖化、そして、それらが 未来の子どもたちを苦しめる事になるのでしょうか。よって、今、私たちは 暮らしを変えて ミニマムな自給的な事にむかわなければならないと思っています。

冒頭から 固い話になってしまいました。大地では、少しでも 個人努力 施設としての努力、そして できる事への小さな証明 そして 啓蒙活動を日々の教育の中で実践してきました。今年度の大きな目玉「朝」 早寝早起きは（夜早く寝る）電力の省エネにつながる。何よりも、一日がエネルギーに使える。大地の食事や調理は 電気ガスは使わない。大地での洗濯は 3日に一度で2槽式洗濯機 マイクロバスでの遠征や遊びはほとんど無し。大地内節電徹底。基本、便利なものには手を出さない、手間暇かけて作り上げる楽しさ 人に下請けには出さずに、**自分に下請けを出すことにより、自分のスキルを高める**。いかに、化石エネルギーを使わずに、人的自分エネルギーを使うか を考え工夫する延長線上に 大地の教育があります。絵本おはなしわらべうた、自然農による調理 食のあり方 自然の中の遊び 天候に左右されない行事。電子機器を使用しない音楽活動など。



そんな大地の活動 特に 朝の活動に ご理解ご協力頂いた一年間に深く感謝いたします。大地基本在籍三年間というスパンで考えるのではなく、子どもたちの未来 50年先の幸せを考えて、大地での活動を考え楽しんでいくことを切望します。一年間 ありがとうございます

【ゴハおじさん】

他人はどう自分のことを見るか 人の評価が気になる 人にどう思われるか・・・を常にびくびくしながら考える、親子でロバに乗ったり、片方ずつ乗ったり、しまいには、ロバを担いだり して理解していくゴハおじさんのお話は深いですね。

小学校3年生からの青ちゃんの学校のノートには、あらゆる所に「人の心」という文字が書かれています。中学頃まで書き続けていたように思えます。朝の朝礼で講堂に全員集合している時やつまらない授業を受けている時など、自分は退屈で面白くないと思っている自分がここにいる、他人はどう思っているのだろう 他人の心を今知りたい、後で聴くのでは無く、今知りたい・・・そんな時に「人の心」という文字を書き続けていた自分がいました。

シュタイナー教育での人間の成長の大きな節目は、9歳。別名 **ルビコン河を渡る 9歳の危機** です。物事を客観的に見る。つまり 自分や両親や周囲の人々を客観的に見る、もう一人の自分に気づく年齢です。自分本位 両親特に母親と一体となって生きてきた自分が、何か違うぞ、何かおかしいぞ 大人っておかしいぞ、自分と違うぞ、他人と自分は違うぞ 親とは違うぞ・・・ともぞもぞして ちょっと距離を置く年齢です

こう考えると、自分も まさに3年生で「人の心」を書き始めたのはぴったりでした。自分は こう考えているのに、他人はどう考えているのだろう、他人の心を覗いて見たいと思っていました。特に 面白くない時、つらい時、退屈な時、苦しい時、悲しい時など、そんな時 人はどう考えているのだろう、どう対処して乗り越えていくのだろう そんな人の心を知りたい知りたいと、常に考え思っていました。自分だけが世界で一番切なく不幸で苦しんでいるかもしれない そんな時 人はどんな心をしているのだろうと。けれども、結局人の心を瞬時に覗く事は不可能だと思い知りました。たぶん、それがわかったのは、中学入学しての頃だったでしょう。それまでは、内気 内弁慶な小学生時代を送ってきました。

中学生になると、今度は 「人の心」から「人の心は自分をどう思うか」という、ゴハおじさんの息子のような思春期特有のやっかいな人間になってきました。そこに、変な自意識過剰な性格が加わり、アンバランスな今で言えば、そううつが有るような不思議な気分になったような気がします。(今でもそうか!?) このあたりから、人の目を気にしなくても、好きなことをやり始めた、伝統や既存の価値に縛られずに目立ちたい一心で、やってみたりすることが多くなってきたように感じます。退屈な時、中庸な時、惰性的な時の流れの時、何か面白く打破する事ができないか、刺激的にワクワクできないかなどと探求するようになってきたように感じます。まさに **「退屈は 創造力への入り口です」**

余談ですが、長女は こんなことを書けばきっと嫌われますが、自分に性格が似ているところが有り、頑固で人のアドバイスをあまり聞かない(青山家の子どもたちは 皆そうですが)。そんな長女の中学生の時の名言「**私は他人の人生を生きない**」だから、人の言うことは聞かない などとうそぶいた事が思い出されます。今考えれば、これは 羨ましい早熟な生き方です。我が子ながら感心します。自分はこんな気分になったのはようやく 22歳を過ぎた頃だったかもしれません。

ゴハおじさんの教えがわかるようになってからは ようやくある程度「人の心」から解放されるようになってきました。自分のやりたいことをやるようになりました。もちろん、旅をして多くの人の生き方に触れてきた影響も多々あります。最近、懐かしい大地 OBOG が訪れるようになりました。(親と一緒に来ることが多い) 大体、24歳前後の若者達です。これから社会人になったり、社会に出て数年で何か考える事があったりしている子どもたちです。大地の光景空気を吸って、親子で懐かしいと当時の事を思い出して盛り上がってくれます。いろいろ話していると、皆共通する事は、何か思うことがあるから大地に来たのだなと感ずきます。訳は聞きませんが、必ずこんな饒の言葉を全員にかけます

「今まで大体 20歳前後で就職して、60歳まで働く時代だったけれど、今は 親も元気だし家計を助けることも心配がないから、30歳で働き始め、70歳まで働けば同じ事。20代は、自分の大好きなことにいろいろ挑戦したり、旅をしたりして、何でも好奇心を持って生きて、30歳前後を目標に見つけていこう、遅くはないよ。そして心の病にならないように」

昔だったら、20代で定職につかずいろいろしていたら、まさに「人の眼」「人の心」が気になっていたかもしれません。でも現代は違います。一回だけの自分だけの人生。他人がなんと言おうと、お節介をやこうと 他人が最後まで責任と使命を持って自分の人生を永久保証してくれる訳ではありませんね。

だから 自分の羅針盤を作り、自分に納得できる人生を選択して、歩んで行きたいものです。